

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「未来を拓く 健やかな 葛野の子」
〇ともに学び合い、ねばり強く取り組める子を育てます(知)
〇よいこと、悪いことをきちんと判断し、責任をもって行動する子を育てます(徳)
〇心と体をきたえ、自分やひとの命と体を大切にすることを育てます(体)
〇人や自然を大切にし、思いやりをもって共に生きる子を育てます(公)
〇多くの人とコミュニケーションを通して、考え、深めあえる子を育てます(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

(問題発見・解決能力)
(自分づくりに関する力)

具体化した資質・能力

問題を発見する力 結果の検討をする姿勢
主体性・積極性 自分らしさを発揮しようとする姿勢

中期取組目標

〇職員一人ひとりの力を発揮していくとともに、チームで「未来を拓く健やかな葛野の子」を育てます
・自ら学ぶ力を身に付けると同時に家庭学習の充実を図り、基礎・基本的な知識・技能の習得、その活用力を育てます
・道徳教育の充実と生活指導を通して、他者と共生する規律ある態度の向上をめざします
・「早起き 朝ご飯 元気なあいさつ 外遊び」のスローガンのもと、健康でたくましく心身の育成を図ります
・積極的に地域と関わり、まちとともに歩む学校づくりを推進します

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (生きてはたらく知), 具体的取組 (1)学年単位で授業を見あう機会を設け... (2)GIGA端末を活用した学年ごとのカリキュラムを明確にし... (3)年間を通して研修や研究の場を設け...)

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童の実態
・新4・5年の学力は前年度より向上が見られる。
・新6年では、〇履過多となっている。特に読み取りの問題に課題がある。
・授業で自分の考えを発表している児童はそれぞれの学力層に同程度いるが、授業の中で自分の考えを伝える活動を取り入れることで学力の向上が見込めると考えられる。
・生活指導や学習意欲は市平均に近く、高い傾向があり、学習に向かう素地がある。
・葛野小学校全体の学力は、十分上げられる土壌ができていると考えられる。



(2)これまでの学校の取組状況
・毎年、家庭学習の仕方を家庭に配付。
・宿題を学年に応じて課している。特に高学年では自分で課題を見つけて取り組む家庭学習も促している。

今年度の目標

学びの中で主体的に発信したり共有したりする場を設けることで、問題を発見し、解決する力を養う。

目標を実現するための具体的行動プラン

〇学年間で授業を見あう機会を設ける。
・メンター-長を軸として学力向上部で年間の授業計画を立てる。
・メンターがない学年の教員がまんべんなく授業に関われるようにする。
〇GIGA端末にかかると各学年のカリキュラムを把握する。
・視聴覚部が中心となって作成した情報教育計画を各学年のファイルに綴じ、年間指導計画に位置付ける。
〇生活総合の立ち上げや、年間計画について研修を行う。
・4月にどのクラスでも総合的な学習の時間が立ち上げられるように、生活総合部で研修の機会を設ける。
・地域の材を活用した計画になるように、総合部が関わる。

〇学年間で授業を見あう機会を設ける。
・年度初めに作成した計画に沿って授業力を高める場を設ける。
〇GIGA端末にかかると各学年のカリキュラムの進捗を確認する。
・年間指導計画を振り返りながら、児童のICT活用の度合いを確認する。
〇生活総合の進捗状況の確認とともに、年間の振り返りを行う。
・年度末に向けて、身近な人々への発信の仕方を考える。
・総合部が率先して情報を発信していく。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (豊かな心), 具体的取組 (1)道徳科・学校行事を中心としたすべての教育活動を通して、豊かな情操を養い、共感・共生する感性の育成を図る。...

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態
・学校「自己肯定感」に関わる質問項目については学年間の差が大きい。最大28ポイントの差がある。
・社会的な事柄が分かってくる成長段階が関係しているのか、高学年になるほど低下している傾向がある。
・学校「人の役に立ちたいか」の項目は、自己肯定感が低い学年が高くなっている。志はあるのだができない自分が悔がゆいことの変れとも感じ取れる。
・親しい家庭環境からどうせ自分なんての思いをもつ児童が少なからずいる。



(2)これまでの学校の取組状況
「自己肯定感の育成」というテーマで、メンター-チーム教員が教科指導に関わり、授業研究を行う。授業研究会は全員参加で行った。
・相互承認による「自己肯定感の育成」を目指し、授業力向上・学力向上につながる研究研修を行った。
・豊かな情操を育てられるよう、今できることの中で工夫して行事を行うことができた。
・各種アンケートや日々の子どもたちの様子の細やかな観察から、関り感や興味に察知し、児童指導等担当者として対応できるように組織的に対応した。
・人権週間の設定、人権教育推進校としての取組を行うことで他者とも認め合う子どもの育成を目指した。

今年度の目標

すべての教育活動を通して互いに認め合うことができる場を意識的に取り入れることを通して、共感共生する感性を育成し、自己有用感を高められるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

〇SSOを中心とした行事を通して、できるようになるという自己実現、力を合わせる体験等を通して自己有用感を高められるようにする。
・運動会活動
・下級生の手本となる上級生の姿
・演技を通しての集団としての高まり
〇4～6年生の宿泊体験学習の集団活動を通して友達とのふれあいを深め、規律・責任感・協力などの姿勢を育てる。
〇道徳の時間の充実を図り、教材を通して集団や社会の関係を考えられるような道徳教育を推進していく。
〇自己有用感を実感することのできる活動を意識的に取り入れることで、自己肯定感を高められると考えられる。

〇音楽祭を中心とした行事を行う中で、自己のよさ、学級学年、他学年のよさに気付く互いに認め合うことを通して自己肯定感を高められるようにする。
〇授業の問題意識を明確にし、道徳的価値に照らした考えをもつことのできるような道徳科の授業を行う。
〇人権教育実践推進校として実践を通して学びを深め、人権意識の豊かな教職員の育成を図り、人権週間の期間を軸として児童指導に反映する。
・YPを通しての学級の分析
・集団の分析
・こどもの社会的スキル横浜プログラムの活用
〇「自分にはよいところがある」と考えられる児童が高学年でも半数を越えるように、認め合える場の設定を教育活動に入れる工夫を継続する。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健やかな体), 具体的取組 (1)学習教材や学習形態の工夫などを通して、自ら課題を把握して問題解決する力の向上や互いに技能を高め合うという態度の育成を図る。...

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態
・自己肯定感については学年間の差が大きく最大28ポイントの開きがある。
・成長するにつれ社会的な事柄についての理解が進むため低学年で60%を超えていたものが高学年になると40%と低下する傾向がある。
・学習意識調査の結果から、「体育の学習が好き」と答える児童の割合は、市の平均と変わらなかった。また、生活指導調査で「体を動かすことが好き」と答える児童の割合は、高学年は市の平均と同じだったが、低学年において少し低い結果となっていた。
・体育科基本調査では、4年生以上のアンケート結果から、体育が楽しいと感じるときは、どんなときかという質問に対して、「力いっぱい活動できた時」と答える児童の割合が多いことが分かった。また、もともと体育が楽しくなってきた児童も、どうしてかという質問に対しては、「技や動きのポイントを見つけた」「視聴覚機器で自分の動きを確認しながら学習する」「自分のもてをもて学習する」と答える児童の割合が多いことが分かった。

(2)これまでの学校の取組状況
・休み時間に校庭で体を動かす児童と教室で過ごす児童の割合がほぼ同程度であった。
・体育学習で鉄棒や縄跳びをしているときは、積極的に校庭で運動する児童が多い。
・クラスレクや長縄集会に向けた練習など、きっかけがあるとなかなか外で活動することができているが、それがないと、積極性が落ちる。(コロナ感染拡大防止に対し、児童自身が自由に遊びに行こうという制限があり、教師のかけがえがないと動かなかった面もある)
・高学年は特に欠席が理由でやることが多くなり、それを休み時間に費やしたり、児童会活動での常時活動で休み時間以外で運動できなかつたりすることが多い。

今年度の目標

・学習教材や視聴覚機器を効果的に活用する。
・委員会活動を中心にして取組を企画・発信し、全校で実践する。

目標を実現するための具体的行動プラン

〇体育学習において、学習カードやIpad、掲示物などを活用して、自己の課題を発見する力を高める。
1年: 主体的に運動を楽しむ態度を身に付ける。
2年: 学習カードの記録の仕方を理解し、学習に活用できるようにする。
3年: 学習カードを活用し、自己の振り返りやめあてを設定する力を高める。
高学年: 学習カードや掲示物を活用し、自身や友達の問題について共有したり把握したりする。
〇体育委員会を中心に「てなわとびカード」の活用推進について考え、発信する。
〇現状の本校の健康課題について考え、1年間の取組目標を主体的に設定し、学校保健委員会などを通して全校に発信し、実践を推進する。

〇体育学習において、学習カードやIpad、掲示物などを活用して、見る視点を明確にして学習課題を把握する力を高める。
1年: 学習カードの活用方法を理解し、課題をもって運動に取り組み力高める。
2年: 学習カードや掲示物を活用し、自身の活動を振り返り、めあてを設定する力を高める。
3年: 視聴覚機器を活用し、動画の手本を自分の動きと比べながら技能向上に向けた課題設定の力を高める。
高学年: 自身の課題について、視点をもって視聴覚機器を使って撮影したり友達と見合ったりすることを通して、課題解決に向けての練習方法を主体的に考え、活動に生かす。
〇体育委員会を中心に、「長縄集会」を企画・発信し、クラス体となって運動に取り組めるようにする。
〇健康推進に関する取組目標について各クラスで実践した結果を振り返り、保健委員会が中心となって分析・発信することによって、以降の取組につなげる。